



# ほんものを たべよう

提出日  
12/火 水 木 金  
24 25 26 27

配達日  
1/火 水 木 金  
7 8 9 10

翌々週配達日  
1/火 水 木 金  
14 15 16 17

2020.1月2週号

Alter Weekly Order Catalogue

## オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

## キャメル CAMEL

# 快適なキャメル毛布

ふんわり、暖かく、蒸れず、へたりにくく丈夫です

## (株)山織

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べ物のネットワーク オルター 代表)



(株)山織の山本 亮社長

### 快適な睡眠

愛知県蒲郡市の(株)山織、山本 亮社長は、中国新疆地区、内モンゴルやモンゴル国に生息する「フタコブラクダ」から採った世界的にも稀少なキャメルを原料に、毛布、ケット、布団、枕などを製造しています。キャメルはふんわり、軽く、柔らかく、しっとり暖かく、蒸れず、へたりにくく丈夫な素材で、たいへん気持ちよく、ぐっすり快適な睡眠を守ります。睡眠時間が短くて困っている人や、リュウマチの痛みで眠れなかった人を助けています。子どもの夜泣きが止んだりしています。

### 春の自然な抜け毛を採っています

キャメルは抜け毛を活用しています。春になって自然に抜けてくるのを待ちます。ラクダにも優しい天然繊維です。

### 良質なフタコブラクダのうぶ毛

キャメル原料は品質にバラつきがあります。フタコブラクダの原毛は、ヒトコブラクダに比べて、細くて長い上に、軽く、ふわふわした感触で極めて良質です。山織ではそのフタコブラクダの「うぶ毛」を毛布に使っています。山本 亮社長は現地でその品質を確認しています。



### (株)山織の キャメル製品

#### ●原料

キャメル…中国新疆地区、内モンゴル、モンゴル国  
フタコブラクダのうぶ毛

#### ●製造

日本国内製

### 厳寒期が育てた暖かさ

モンゴルの夏は40度以上、冬は厳寒期にはマイナス30度より寒くなることも稀ではありません。その寒さに耐えるため、ラクダの毛には毛髓(毛の中身)が発達しています。毛と毛の間に空気をため、体温を逃がしません。ラクダの毛は熱伝導率が低く、繊維表面積も多く、含む空気量も多く、保温性、蓄熱に優れています。心地よい暖かさが特徴です。

### サラッとした寝床

キャメルは暖かいのに、蒸れません。吸湿性、発散性が共に優れ、常に乾いた状態になる性質があるからです。とくに吸湿性は現存繊維中で最も大きく、放湿性は獣毛の中でも優れています。そのため寝床内は四季を通じてサラッと気持ちよく、驚くほど蒸れません。就寝中にかく汗は、不快なばかりか暖かさも奪ってしまい、快眠を妨げ、寝冷えや風邪の原因にもなります。キャメルは爽やかな使用感なので、湿度の高い日本の気候に向いています。

### 長期間使用してもへたりません

キャメルは繊維表面が滑らかで、毛が絡み合ったりしません。摩擦や圧迫などの外的刺激に強い素材です。長期間使用しても固くなりません。繊維自体に元に戻ろうとする働き(復元力)があり、抜群の耐久性で、弾力がいつまでも長持ちし、長期間ふんわりと使うことができます。へたりにくいので敷布団にも向いています。

洗濯する場合、肌着、靴下など小物類はネットに入れて一番緩いモードで洗うことができます。寝具類はオルターのクリーニングハウスムーさんへお出しください。

### 丁寧な国内生産

山本 亮社長はキャメル原糸を輸入したあと、生地作り、縫製まで全て日本国内製にこだわっています。

その理由は(1)熟練した職人の技術がある、品質の高い製品づくりのため(2)作りたい製品を妥協せずに形にできる(3)お客様の声に素早く対応できる(4)小ロット生産が可能、です。全国各地に点在する織物の産地を訪ね、職人さんと知恵を出し合い、機能的で味わい深く、使う人が心から喜べるオンリーワンの製品を作っています。

### 人と環境にやさしい製品作り

(株)山織は1985年、山本 正治先代社長(現会長)が創業しました。キャメル製品は2000年に現社長が取り扱いを始めました。

山本 亮社長は婿養子で、(株)山織に入りました。元々(株)山織は中国で商品を作っていました。その中国での繊維生産の現場で、発がん物質や劇薬を使い、見学していても息苦しい工場の空気、下水に汚水を流している現場を見たときから、環境に悪いこの産業のあり様に疑問を持ち、そのような仕事をすることに心を悩ませていました。

そんな折、ある繊維問屋の社長から「売りたい商品がない商品はない」「どんな人に何を売りたいのかを考えることが大切」と教えてもらい、「キャメルのふとん」の情報も教えてもらったのでした。「せつかくもの作りに携わるなら、後ろめたい気持ちにはなりたくない。からだ地球環境に優しいものを作りたい」という気持ちが強くなりました。以来、キャメル製品の開発や、環境にやさしい天然製品の良さや、その土地に古から受け継がれる伝統技術の素晴らしさを伝えていく活動に参加しました。



▼製造風景



カラーチラシで、山織のキャメル製品をご紹介します。